

# 秋退教

No.70

2016年2月20日

秋田県退職教職員協議会

秋田市山王4-4-14  
(教育会館内)

よりよく生きるために  
高齢者福祉に  
関心を!

## 参議院選で鉄槌を!

会長 川村 豊太

七月十六日衆院での戦争関連法案が強行採決され、参院での委員会審議が始まると全国の怒りと安倍政権退陣をめざす運動が大きく燃え上がった。

「戦争をさせない、九条壊すな!、総がかり運動」の七月二十六日は東北ブロックとして秋退教も参加(川村)

した。国会前の歩道の一角に数万の市民とともに徹底的な抗議を行った。

最寄りの地下鉄国会議事堂駅を降りるとすごい混雑で、そのうねりが地上

まで続き、日教組の枠も立錐の余地がなく、立ったままで身動きが取れない状況での炎天下の二時間であった。二万六千の参加とのことであつたがもつともつと多い感じがした。

その後、九月十四日の地公退高齢者の集会、十五日の退職者連合高齢者のデモ行進、十六日国会周辺座り込み(憲政会館前)行動にも参加し、戦争関連法案廃案の声を上げた。



デモ参加中の川村会長

自民党一党支配、安倍首相の独裁政治をどうしても止めなければならぬ。参院選で鉄槌を下した

い。「教え子を戦場に送らない」ためにも。

## 投資対象の「米軍基地」

秋教組執行委員長 山縣 稔



昨年十一月、辺野古のキャンブシユワブゲート前での抗議活動に参加した。

その帰りに沖縄の街で見かけた不動産屋の「軍用地」という看板が妙に印象に残っている。

さつそくインターネットで調べてみると、沖縄にある米軍基地用地は、とても有利な投資対象になっているようだ。借地料が毎年値上がりするため、貯蓄と同じ効果があり、しかも国債よ

りもはるかに有利なのだという。特に返還の用途が立たない米軍基地の場合、長期の運用ができることから、さらに有望株とみられている。沖縄の地元新聞には、「軍用地」の売買広告が目白押しである。

国土面積〇・六%に米軍基地の約七二%が集中し、基地の重圧にあえいでいる沖縄の土地が、投資対象になって取り引きされているのを見るにつけ、「道具」にされている沖縄の現実を見せつけられる思いだ。ある不動産会社の宣伝によれば、事故があれば、さらに借地料が値上がりするそうである。

ちなみに自衛隊の基地用地も、土地取引では「軍用地」と言うそうである。自衛隊はいつから「軍」になったのだろうか。

五者とは日教組、日退教、全国退女教、教職員共済、教職員相互互助会の五つの団体を指します。この会は、教職員が現職だけでなく退職者も「安心して、心豊かに暮らせる社会を目指し、学習を深め、課題に対し連携して取り組もう」というのが趣旨です。

今年で二十二回目となる学習会は十月十五日ラポール日教済で開かれました。その会での基調報告を紹介いたします。(要旨のみ)

① 参議院で強行採決された「安全保障法関連法案」は「私たちの生命

## 安心して暮らせる社会を

### 五者台同学習会報告

と財産を危険にさらしかねない法案」であり、容認できない。

② 社会保障審議会年金部会の報告書では、デフレ化におけるマクロ経済スライドの適用を除外していないなど問題のある報告となっている。

③ 要介護・要支援者の増加・重度化、加えて認知症の増加によって、介護労働者への負担は一層重くなっている。介護離職者が年間十万人を超えるなか介護サービスの質・量が求められており、介護職員への制度的支援の拡充が急務になっている。

(樋口)

### 現職退職者合同学習会



今年の学習会は、十一月七日(土)ルポールみずほ(秋田市山王)で開催された「秋教組第65次県教育研究会」全体会の講演を聴くことにしました。

講師は本多由紀さん、演題は「社会を結びなおす―若者・学校・社会をつなぐ―」で約百分講演していただきました。会場には秋教組組合員・退職者など二百名を超す参加者があり、熱心に拝聴していました。講演の要旨は次のとおりです。

#### 「社会を結びなおす」

―若者・学校・社会をつなぐ―

東京大学大学院 教育学研究科

本 多 由 紀 教授

**戦後日本社会の二つの時代区分**

①、石油危機以前の一九五六年～一九七三年までは平均成長率九・一%ときわめて高く高度経済成長期と呼ばれた。

②、一九七四年年～一九九〇年までの平均成長率は四・二%とまずまずの水準で安定成長期であった。

③、バブル崩壊後の一九九一年～二〇一二年まではマイナス成長の年も再三あり、平均〇・九%と低成長期に入り込んでしまった。

#### 団塊世代とジュニア団塊世代

日本の人口の中で特に多い世代

#### 講師プロフィール

一九六四年徳島県生まれ。  
専門は教育社会学、主な著書「社会を結びなおす―教育・仕事・家族の連携へ―」「多元化する「能力」と日本社会―など

は二つある。この二つのライフコースをみれば、戦後日本社会の変化と時代間の落差とを同時に理解できると思います。

団塊世代(一九四七年前後生まれ)の高校進学率は七〇%前後、そして大学・短大進学率は二〇%弱であり中卒・高卒・大卒いずれを卒業しても社会は高度成長期(人手不足)であり就職はかなりスムーズにできた。

一九七〇年代半ば前後生まれの団塊ジュニア世代の高校進学率は九五%、大学・短大進学率は三〇%後半となり、中卒で社会に入る人は極端に少なくなっている。

この世代が高卒のころはバブル期のピークであり求人も多かったが、四年後の大卒の時期はピーク

も過ぎ厳しい就職難に直面した。こうした社会状況の中でいわゆる「フリーター」とか「ニート」等のキーワードで注目されるようになった若者の雇用問題は、若者の「甘え」や「劣化」で説明できるものではまったくない。

社会を支える役割を果たしていた。三つの領域をつないでいる矢印の中味の主なことは「フキダシ」に書いています。例えば教育と仕事の「フキダシ」には、新規学卒一括採用という特異な採用慣行があります。これは高度経済成長期のための新規学卒者に対する高い労働需要があったことを示しています。

#### 日本型循環モデル

戦後日本の進んできた過程で

きあがった「かたち」を私は「戦後日本型循環モデル」という捉え方をしている。(左図参照)

このモデルの最大の特徴は、仕事、家族、教育という三つの異なる社会領域の間で①極めて強く堅牢で②一方的な矢印によって統合され社会が「まわって」いたということ。このモデルでは、政府は公共事業などの政策を通して

#### 「モデル」に内在する問題

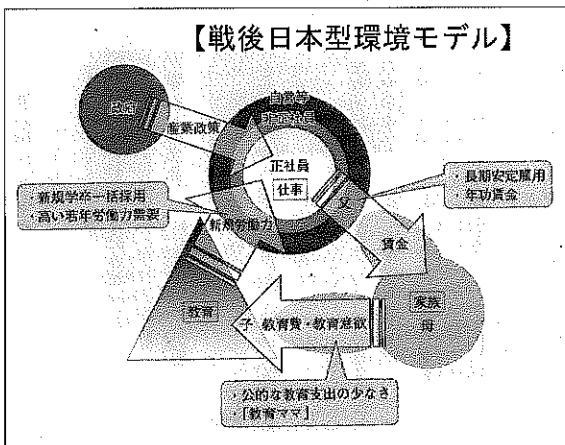
教育と仕事の例では、「いい成績をとりいい高校・大学に入り、いい会社に入るのために勉強」と外発的動機づけで学習が進められてきた。(今も否定できないが)その結果受験競争が激化、その後後に落ちこぼれ、不登校、校内暴力など多くの教育問題が起き、それを押しとどめるため管理教育の強化が徹底されてきたことを私たちは忘れてはならない。

#### モデルの破綻

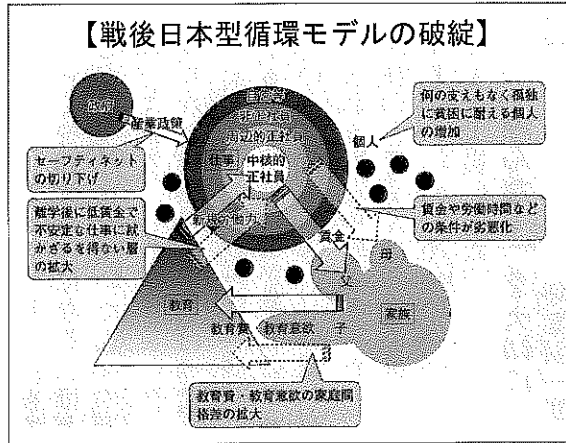
バブル崩壊後の景気の低迷は仕事において賃金格差となって顕れ、これが家庭における教育費にも反映され経済力が学力・大学進学にも大きく影響している。

こうした教育環境の中で高校生は学ぶ意義も浅薄で、進路への不安(キャリア教育が生かされていない)を抱え、一方でいじめ、自殺などが起こり、家庭では親子の

【戦後日本型環境モデル】



対話不足、母子家庭の増加などがモデル破綻の因ともなっている。



### 新しいモデルに

仕事、家族、教育の各領域が一方方向に流れていた日本型循環モデルの矢印を双方向的なものにもっていく必要があると考える。双方向とは各領域の間で互いにバランスを取りながら支え合っていくということ。例えば教育では、「教育の職業的意義」(特定の仕事分野に関する知識・技能を核として伸び広がる柔軟な専門性や、仕事の問題状況に対する建設的批判と変革のための知識とノウハウ、労働法や労働者の権利に関する知識と実践方法など)を高校以上のすべての教育機関において拡充されることである。

## 秋退教主催の親睦・交流事業

### 囲碁大会

- 期 日 9月11日(金)
- 会 場 県教育会館
- 参加者 Aクラス(無差別) 3名、Bクラス(二〜五段) 7名、Cクラス(初段以下) 3名 計13名
- 戦 績 (敬称略)
- 優 勝 ○平泉 昭(大北)
- 準優勝 ○土倉 和夫(本由)



ウム!そこに置くのか

退職して二十年になります。当初は互助会や共済などの囲碁があり、全県の団体戦もありました。その後、互助会がなくなり、高齢化も進み、参加者もだんだん減ってきたのは、残念でなりません。

### 継続を願って

しかし、「生きがい支援協会」が、数年前から、県大会、東北大会、全国大会を開催してくださり、囲碁愛好者としては、大

- 三位 葛谷 睦雄(大北)
- 優 勝 ○大石 静夫(男湯南)
- 準優勝 ○中田 博(秋田)
- 優 勝 ○大沢 淳二(本由)
- 準優勝 佐々木紀久男(能山)
- 三位 ○木村 寛(秋田)

※東北ブロック大会(10/26福島市)には○印の六名が出場、大沢(Cクラス)優勝、大石(Bクラス)準優勝、木村(Cクラス)が三位と好成績でした。全国大会に出場した大沢は入賞できませんでした。

### グラウンドゴルフ大会

- 期 日 10月6日(火)
- 会 場 潟上市天王グラウンド
- 参加者 各支部・秋退教員など9チーム 36名
- コース 4コース 32ホール
- 成 績 (敬称略)



入るか…。緊張の一瞬

- ◇団体の部
- 優 勝 秋田(三二五打)
- メンバー 工藤宣一 工藤文子
- メンバー 納谷 博 納谷節子
- 準優勝 本荘由利A(三三三打)
- メンバー 中村定次 五十嵐静也
- 三位 東海林明夫 高橋 清
- メンバー 大館北秋A(三三三打)
- メンバー 高田政男 佐藤龍一
- メンバー 畠山辰夫 畠山イセ
- ◇個人の部
- 優 勝 納谷節子(秋田・74打)
- 準優勝 三浦豊彦(男湯南・75打)
- 三位 高橋 清(本由A・79打)
- ※ホールインワン賞
- 納谷節子(秋田) 松尾和男(大北B)
- 東海林明夫(本由A) 高橋 清(本由A)
- 例年ホールインワン賞は、すべてのコースでホールインワンになった方を該当者としてしまいましたが、今年は、各コースの6番を指定し実施しました。
- ※ブリービー賞
- 佐々木紀久男(能山)

### 支部からの寄稿

#### なつかしい再会の場

黒沢 健文

#### 男鹿潟上南秋支部

私はC型肝炎の予後の検査を六ヶ月に一回受けることになっていて。四月と十月、秋田市の総合病院に足を運ぶ。

検査はけっして楽しいものではないが、待合所で待っている時になつかしい昔の知人に何十年ぶりかで再会することがある。これはなかなか楽しいことである。「〇〇〇さん」と呼ばれて、書類を受け取ったりしている人に近づいていくと、向こうもこちらを察知して、にこにこ笑って待っていてくれる。それから積もる話をしばらく交わすことになる。ほとんどがいつしよに働いた人々の近況などである。

知らないでいたこともけっこうあつて驚かされることも多い。「しかし、再会の場が病院の待合所というのは少しさびしい感じがするよねえ」と何時か言ったら、皮肉屋の〇〇さんは「あの世で会うよりはいいんじゃないかい」とのこと。大笑いした。

#### 「みんなを」を大切に

藤峯尉一郎

今年度は、マイナス面の多さが目立った年であった。そ

のひとつは、新加入が最近の状況から見れば最低の四人であった。退職者の多い年で、三十名を超えていたにもかかわらず、残念な結果であった。加えて、交流の場としてのいものこ掘り会、私たちの小旅行、麻雀大会、ボウリング大会は例年より少ない参加数、最近

は増加傾向にあり喜んでいたのでなげと思うこの頃である。秋の紅葉を核にした私たちの小旅行、この活動も例年より少なかった活動ではあるが、鳴子峡の上から見下ろす深い渓谷の絶景は、参加者に感激と癒しを与えてくれた。麻雀大会は、参加者不足から、中止、麻雀を楽しむ方の世代が、高齢化したことが大きな要因かと思われるが、この世代は「みんなで」という意識の強い世代でもあり、今あるこの会を支えてくれた方々でもある。特に加入者減の要因に、この会を支え、継続してくれた世代が持つていた「みんなを」が失われつつあることを意味するのではないかと思われる。世論調査に「どちらとも言えない」が非常に多くなり、与党はこの現象を利用して、施策に、逆の面を隠しながら、見た目には鉛を与え、うやむやの状態を進める。野党は、セクト、主義主張のみにとらわれ、

この「みんなを」を忘れているのが非常に気にかかるのは私だけでしょうか。

#### 横手支部

有意義な将棋クラブの活動

阿部 和夫

昨年九月に「秋退教横手支部将棋クラブ」を立ち上げました。その設立の主旨は「一人

一人の趣味や特技を生かして同好の方々が集まり、一緒に活動することで楽しく有意義な時間を送る」ということです。当初は、将棋のほかには囲碁や調理なども分野にあがったのですが、世話人の関係で取りあえず将棋を推し進めることになりました。設立時は支部会員二名でしたが、会員外の方二名ほ

加え四名で活動しています。昨年度は二回、今年度は三回集まり練習将棋を中心に行ってきましたが、十一月十三日に横手市・女性センターで「第一回将棋大会」を開催



将棋大会「決勝戦」

しました。勝負ごとのです。必ず順位がつくわけですが、勝ち負けを越えてとても有意義な時

間を共有できます。他支部の皆さんも横手支部の将棋クラブに加入してみませんか。

#### 鹿角支部

五人の仲間を見送る

成田 伸世

年度をまたぐことになるが、一月以来五人の会員を見送った。

退婦教と合同の小さな旅を心待ちにしていたKS先生。数年前にアタつたが朝のウォークで歩幅もすっかりしてきて、私との声かけを楽しみにしていた。公園の石段で躓き頭を強打した。岩木山行きの十日前の事故。入院二〇日で帰らぬ人となった。

KM先生は囲碁が趣味で互助会の例会に欠かさず参加。左手から伸びてくる指に戸惑った。屋根からの転落が起因だった。

退職教職員作品展の常連HB先生。書と油絵を出品し壁面を飾ってくれた。通院中の病院での転倒がもとで再起できなかった。今年彼の作品がなくなさびしかった。

水俣病の追究をライフワークにかづの九条の会の最高の論客だったSK先生は私の生涯の師である。「九条の会には何があつても行く」と奥さんに伺った。数年前「もういらぬから」と『きけわだつみのこえ』の初版本をいただいた。八九歳——先生の思いが伝わる。

入院一週間での別れとなった。悲しみの中で新しい年を迎えようとしている。 合掌。

### 能代支部

#### スーパーでのマナー 佐々木紀久男

買物によくスーパーに行く。食べることに生きがいを求めているからである。そこで目にすることが、マナーの悪さである。夫婦で買物をするとき、カゴを乗せたトレーを中にして二人が立つと、その棚の物を取ることができない。二人で話し合いなかなか動かず他人に迷惑をかけることを何ともないと思っているようだ。

買物した後、テーブルの脇にカゴの置場があるのに、テーブルの上に上げたまま帰る人、買物をした後、トレーに物をのせて車まで行き、トレーを駐車場に置いたまま帰る人、少し良心的なのが入口の所まで来てやめる人、もう二三步でトレー置場が有るのにできない。この他にもいろいろあると思うが、利己的人間がふえつつあるように思うこのごろである。

### 秋田支部

#### 健康クラウンドゴルフ大会を 納谷 博

秋晴れの十月六日、潟上市天王グランパスくらかけ会場に、県内6支部及び本部含め9チーム三十六名の代表選手が集い、標記大会が開催された。

我が秋田支部チームは工藤宣一文字夫妻、納谷博、節子夫妻の四名、一昨年に続いている優勝を目指した。天王のコースは地元でもあり、勝手知った起伏の多い芝面での傾斜面の癖などはある程度記憶しているだけ有利かなと考えた。

しかし、グラウンドゴルフはそう甘くはないのが通常で、その日のポールのセッティング次第では計算通りにはいかないのが当たり前。一打目からボールに嘲笑われポール正面の脚に触れて停止、そのままではどう打ってもサークル内には入らない。あきらめて一打横に寄せて3打で停止の羽目に。

グラウンドゴルフは技術もさることながら心理的なブレや体調がスコアに大きく影響するスポーツでもあり、この日はホールインワンも出ず八十四打の平凡な戦績に終わった。妻の節子選手がホールインワン③の七十四打で個人優勝。チームも工藤夫妻の活躍もあり団体優勝、楽しい初秋の日だった。

#### 貴重な財産「落の臺」 松尾 和男

本支部では、文集「落の臺」を発行全会員に配付しております。

### 大館北秋田支部

発行は「退教協結成十周年にあたり会員の益々のご健勝と二層の親睦交流が深まるような

機関紙、文集の継続発行を願う」という趣旨から始められたと聞いています。

昭和六三年三月初刊以来、会員からも寄稿を募り支部の軌跡・随筆・詩・歌・川柳・短信等幅広いジャンルの作品が集まり、今年度に29号を刊行する予定です。

私が「落の臺」の刊行に携わって十年になりますが、先輩諸氏からの伝聞によれば、当初は紙質も貧弱で総て手作り、体裁を気にかけずに刊行してきたとのことでした。

支部結成三十周年を機に、より多くの掲載・行事の写真・製本を業者に依頼する等の改善を試み、会員からも好評を得ています。因みに、現在までの寄稿者は延べ六八一名、一二一頁です。

#### 先輩から受け継いだ貴重な財産として大切に育てていく積もりです。

#### 花岡事件現場跡地等への旅 片野 武郎

九月十五・六日、支部としては初の一泊学習旅行です。八名、車二台の旅です。花岡事件現場と関係する跡地や慰霊碑、旧小坂鉱山事務所、康楽館、花輪ばやし屋台展示館などを見学しました。花岡事件関係は、「花岡の地、日中不再戦友好碑をまも

る会」の方々に実地説明して頂きました。

花岡事件が起きた原因は、花岡鉱山七ツ館坑の崩落事故にあり、当時の藤田組は生き埋めになった二十二名の労働者の遺体の発掘もしないで、坑内を閉鎖し崩落地を充填、整地しました。この処理により花岡川の水路変更工事をしました。この工事には、中国より強制連行された労働者が従事させられました。あまりにも過酷な働かせ方に耐え切れず、一斉蜂起に至ったのです。

事件七十年を経た今、戦後処理の課題を多く残したままで、またもや戦争に進む政策に抗議する気持ち強くしました。

#### 「健康講座」

雄勝中央病院院長中村正明先生による「健康講座」は今年で十五回目です。革新懇の人たちの参加もあり、二十一名集まりました。

教えて欲しいことを予め提出しておき、そのことについてお話を頂く方法をとっています。(それ以外のことについても質問できる)今回は

○脳の老化とマルツハイマー、その対応について

○開腹なしの内臓手術の事故について

など六点でした。

### 本荘由利支部

福島の子ども、学校、地域は今  
村山 廣樹

3・11から4年4カ月が経過した10月13日、恒例の退婦教との合同学習会を開催。地元の中学校を退職された遠藤先生の熱い語りを通して、復興とは程遠い現状、教育行政の非人間的な施策に驚くと同時に、やはり風化させてはならないとの想いを強くしました。

特徴的なくつかを拾います。  
○原発事故により子どもたちも家庭もバラバラ。仮設校舎が子どもらの母校に。三四〇人いた生徒が再開時には四二人だけ。五つの小学校と四つの中学校が鹿島中学校

に。児童数が減ったため教員は数校かけもちの「兼務発令」。精神的賠償金打ち切りで生活も成り立たず。事故三週間後、県教委は学力向上対策を指示。子どもたちの実態を見ない教育行政。事故原因の究明もできずに原発を再稼働・輸出する異常さ。汚染水を海にたれ流す異常さ。汚染物質の放置・流失。18年4月までに元いた場所に住民を戻したい意図は？……  
○行政は住民本位には動いてくれない。マスコミで伝えられない部分が多く、人間らしく暮らすというささやかな願いさえ叶わない現状に怒りがわいてきました。

### 創立50周年によせて



教職員共済生活協同組合  
秋田県事業所 所長 篠田 正史

## 教職員共済を創った男

教職員共済に赴任しての最初の仕事は「雲、流れる如く」を読む事であった。著者は山中忠喜。日教組社会福祉対策部長で、共済事業創設のため奔走した人物である。

氏が社対部長として大切にしてきたことそれは、「賃金闘争」と「教職員の福祉の充実」の二つである。前者は、労組としての最重要課題、後者は当時の日教組では

あまり問題にされなかった。しかし、教職員の健康や老後の保障などの体制を作ることは、労組にとって重要な事を彼は、大企業の福祉活動を見て確信していた。またその頃の日本は、伊勢湾台風や第二室戸台風などまるで災害列島であった。その度に日教組は一人十円カンパで救済しようとしていた。実際は大変な時間と労力が必要であった。彼は、その膨大なエネルギー

### 2015年度 秋退教役員一覧

役職	氏名	支部	役職	氏名	支部
会長	川村 豊太	秋田	常任委員	池田 信男	秋田
副会長	桧森 秀忠	能山	常任委員	藤峯 尉一郎	仙北
副会長	内藤 眞吾	秋田	常任委員	仲村 吉光	大北
副会長	菊地 進	仙北	会計監査	茂木 栄逸	秋田
事務局次長	樋口 新平	大北	会計監査	鈴木 健	仙北
事務局次長	石山 武志	秋田	会計監査	木村 三郎	大北
書記局次長	小林 基一	男湯南			

### 2015年度 各支部役員一覧

支部名	会員数	支部長	副支部長	◎事務局次長
鹿角	59	伊藤 正信		◎成田 伸世
大北	203	島内 重昭	松尾 和男 仲村 吉光	◎菅原 克夫 ◎松橋 英雄 ◎樋口 新平
能山	170	桧森 秀忠	畠山 春男	◎佐々木 紀久男 ◎梅田 喜孝
男湯南	41	黒沢 健文	夏井 義一	◎佐藤 壽 ◎奈良 順子
秋田	155	内藤 眞吾	矢田部 幸三 佐藤 ツ子	◎大友 武夫 ◎嵯峨 静男
本由	168	桐田 賢二	小番 功 沼倉 只輔	◎村山 廣樹 ◎猪股 弥太郎
仙北	142	伊藤 鐵也	菊地 進 佐々木 淳一	◎藤峯 尉一郎 ◎武藤 滋 ◎高橋 真理子
横手	83	松井 恭志	小西 栄子 熊谷 幹雄	◎阿部 和夫 ◎大極 喜久男
湯雄	79	佐藤 豊	小野 章三	◎片野 武郎

計 1,100

の消耗を、日常的に見舞金制度として確立できないかと考え、結果、組合員が毎月掛け金を出し、万のため助け合う民間保険とは違う新しい制度の確立という夢が生まれた。しかし、当時の日教組では誰一人賛成者がいなかった。一九六五年通称「日教済」誕生までの物語である。

### 編集後記

○久しぶりに秋教組の教育研究会に参加。全体会の講演会には会場一杯の教職員が集まり研修を深めている姿に頭が下がりました。  
○講演「社会を結びなおす……」の要旨は当日配布の豊富な資料や講師の著書などを参考にまとめましたが、講師の意図するこ

とが十分伝えることができたか疑問です。改めてまとめることの難しさを痛感させられました。  
○一九四二年二月生まれの私は、戦後の最も困難な時代、経済成長期、安定期そして低迷期を経てきたので講師の話は非常に興味深く、理解も深まりました。そして困難ではあったがよい時代に生きてきたなあとの感もあります。それは世の中が平和であり、自己実現のできる社会でもあったからだと思います。これから育っていく若い人たちに対して、私たちのすべきことは何なのかを考えさせられた講演でした。○今号もまた、たくさんの方の協力で会報を発行できたことに感謝しています。(樋口)